

試合番号 : 178	試合会場 : 三島市民体育館	観客数 : 1,176
開始時間 : 12:00	終了時間 : 13:29	試合時間 : 01:29
主審 : 戸川 太輔	副審 : 森口 豊	
<b>堺ブレイザーズ</b> 通算 6勝 10敗 ポイント : 19	25 第1セット 20 25 第2セット 20 25 第3セット 20 第4セット 第5セット	<b>FC東京</b> 通算 3勝 14敗 ポイント : 8
<b>監督コメント</b> 本日はとても良いチームプレーができ、2人のミドルも素晴らしい活躍してくれました。この2戦、オフェンス面でも良い流れができており、要所で山本のチームの雰囲気も上がってきましたので、良いお正月を迎えられそうです。年明けからまた優勝できるように頑張っていきます。応援よろしくお願いします。	<b>3</b>	<b>0</b> <b>監督コメント</b> 今日はいリーグの行方を占う重要な試合であったが、力を発揮しきれず非常に悔しい。2レグに入ってから、少しずつ形が見えてきたが、まだまだ成長しなければならぬ。今年も応援のほど誠に有難うございました。来年もよろしくお願致します。
<b>要約レポート</b> 昨日に引き続き優勝を狙う堺ブレイザーズとFC東京との一戦。第1セット、一進一退の攻防が続くが、堺・千々木のアタックで一歩抜け出す。FC東京も迫田、プレモビッチがアタックを決め堺に迫るが得点差は詰まらず、そのまま堺がこのセットを先取した。第2セット、長いラリーが続く展開となった。両チームとも点を取り合うが、中盤に堺が髙野、トレスのアタックで点差をつける。終盤はFC東京も井上、プレモビッチのアタックで迫るがそのまま堺が逃げ切りこのセットも連取した。第3セット、勢いに乗る堺は竹元、トレスが得点を重ね先行する。対するFC東京も迫田、プレモビッチがアタックを決め反撃するがその点差は中々縮まらない。終盤FC東京が連続ポイントを重ねるも、堺のトレス、千々木の攻守にわたる活躍でこのセットを奪取し、堺が3-0で勝利した。		

試合番号 : 179	試合会場 : 三島市民体育館	観客数 : 1,719
開始時間 : 15:00	終了時間 : 16:28	試合時間 : 01:28
主審 : 原 啓之	副審 : 小野 将人	
<b>東レアローズ</b> 通算 7勝 10敗 ポイント : 23	17 第1セット 25 19 第2セット 25 24 第3セット 26 第4セット 第5セット	<b>サントリーサンバーズ</b> 通算 11勝 5敗 ポイント : 34
<b>監督コメント</b> 三島のホームゲームで2連敗と、見に来てくれた皆さんには申し訳ない気持ちでいっぱいです。年内は7勝10敗と全然満足できるような結果ではなかったですが、これが我々の現状です。しっかりと反省し、2週間で課題を見つけて出し、年明けからは違うアローズを見せられるよう、チーム皆でもう一度戦っていきたくと思います。2019年、たくさんの応援ありがとうございました。	<b>0</b>	<b>3</b> <b>監督コメント</b> 今日東レ戦に向け、チャレンジしていく気持ちを全面に出し、選手はしっかりと戦ってくれました。劣勢な場面、競える気持ちと集中力が相手より良かったと思います。今年最後のゲームを勝利でき、来年に向けて勢いがついたと思う。今年1年間応援ありがとうございました。来年もサンバーズを宜しくお願い致します。
<b>要約レポート</b> 優勝を狙うサントリーサンバーズと、ホームゲームでの連敗を避けたい東レアローズとの一戦。第1セット、藤中や泰などのブロックで東レの攻撃を封じたサントリーが、序盤からのリードを維持し先取した。第2セット、中盤まで一進一退の攻防が続いたが、ムセルスキーのサーブから攻撃を組み立てたサントリーが一歩リードし、そのまま勢いに乗りこのセットも連取した。第3セット、東レが星野のブロックでムセルスキーを捕まえ一歩リードするものの、サントリーはそのムセルスキーの連続ブロックで逆転し、両チーム一歩も譲らない展開となった。終盤、塩田のサービスエースからリードを奪ったサントリーがこのセットを奪い、勝利した。		

試合番号 : 180	試合会場 : 武田テパオーシャンアリーナ	観客数 : 1,650
開始時間 : 12:00	終了時間 : 14:39	試合時間 : 02:39
主審 : 村中 伸	副審 : 浅井 唯由	
<b>ウルブドッグス名古屋</b> 通算 7勝 9敗 ポイント : 21	25 第1セット 19 26 第2セット 28 25 第3セット 23 24 第4セット 26 25 第5セット 23	<b>大分三好ヴァイセアドラー</b> 通算 2勝 14敗 ポイント : 8
<b>監督コメント</b> 今日もたくさんの応援ありがとうございました。今日の勝ちからしっかり学び、後半戦のターニングポイントにしたい。皆さんに幸福が訪れますように。メリクリスマス。	<b>3</b>	<b>2</b> <b>監督コメント</b> 勝利目指しベストを尽くしましたが、あと1歩が出ませんでした。両チームのファイトはバレーボールの醍醐味であったと思います。2019シーズンは終わりましたが、1月からの試合に向けてもう一度団結して頑張っていきたいと思っております。本日もご声援ありがとうございました。
<b>要約レポート</b> ウルブドッグス名古屋が苦しみながら、大分三好ヴァイセアドラーから勝利を取った。第1セット、序盤に「チャレンジ成功」でWD名古屋が流れをつかみ、ガスバリーニ、高松のサービスエースなどサーブで主導権を握ると、勢いそのままにセットを奪った。第2セット、デュースに入ってから互いにサービスエースを1本ずつ奪い合う激しい競り合いとなったが、27-26からバグナスがサービスエースを奪って、大分三好がセットを取り返した。第3セット、中盤までサイドアウトが続いたが、WD名古屋が17-18から3連続得点で逆転した。21-20の長いラリーでの傳田のブロックポイントがカギとなり、WD名古屋がセットを奪った。第4セット、ヤカンと勝の相手を前後に揺さぶるサーブでペースをつかんだ大分三好が、セットアウトをタイに戻した。しかし、最大7点差を追い付いたWD名古屋の粘りが最終セットに活かされた。第5セット、大分三好に6-8とリードされてチェンジコートを迎えたWD名古屋だったが、このセットから入った樽山がライトサイドから強打を連発して追いつくと、デュースに入ってからミドルブロッカーに攻撃を決めさせるセッター前田の巧みなトスワークで、23-23まで競り合った。WD名古屋は相手のミスでマッチポイントをつかむと、最後は傳田が相手レシーバーを弾くサービスエースで締めくくった。		

試合番号 : 181	試合会場 : 武田テパオーシャンアリーナ	観客数 : 1,500
開始時間 : 15:15	終了時間 : 16:38	試合時間 : 01:23
主審 : 山本 和良	副審 : グレグ ルーオー	
<b>パナソニックパンサーズ</b> 通算 15勝 1敗 ポイント : 44	25 第1セット 18 25 第2セット 16 25 第3セット 19 第4セット 第5セット	<b>VC長野トライデンツ</b> 通算 2勝 14敗 ポイント : 6
<b>監督コメント</b> スタートから良い形でゲームを作ることができた。選手1人1人がよく集中し最後まで戦ってくれた。2019年を良い形で締めくくれた事を本当に嬉しく思う。2020年もより良い形に出来る様、選手、スタッフが一つとなり、全員で全力で最後まで戦い抜きたい。本当にたくさんのご声援ありがとうございました。来年もよろしくお願致します。	<b>3</b>	<b>0</b> <b>監督コメント</b> 年内最後の試合でしたが、0-3で負けてしまい残念です。パナソニックは、いいゲームをしていてプレッシャーを入れたがなかなか勝ててくれませんでした。次は年明けになるのでそれまでにしっかり調整して挑みたいと思います。本日は応援ありがとうございました。
<b>要約レポート</b> パナソニックパンサーズが、VC長野トライデンツを寄せ付けず、ストレート勝利を取り、白星を積み重ねた。第1セット、中盤までサイドアウトが繰り返される一進一退の攻防が続いた。そんな中、パナソニックがサーブで優位に立った。13-11から大竹が、19-14から深津がそれぞれサービスエースを奪い、ペースをつかんだ。なお、このセットは中盤までにそれぞれのチームから1名ずつがグリーンカードを受ける。クリーンな戦いが繰り広げられた。第2セット、序盤からパナソニックの大竹が爆発、ライトサイドから強打を何度も決めた。中盤、またも深津のサービスエースを含む3連続得点で13-7と優位に立ったパナソニックは、終盤にも連続ブレイクを奪い、安定感、余裕のあるプレーでセットを連取した。第3セット、出だしこそVC長野がためらいのない攻撃で流れをつかんだものの、序盤に二度の4連続得点を奪ったパナソニックが11-7と逆転した。18-16からも児玉、渡辺の強打などで3連続得点を奪い、そのペースのまま25点までパナソニックが駆け抜けた。VC長野は、このセットだけで12本のミスを出してしまっただけで痛過ぎた。		

※本票の著作権は、一般社団法人日本バレーボールリーグ機構に帰属します。